

令和 6 年度 第 1 回刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和 6 年 7 月 26 日（金）午後 3 時 00 分～4 時 30 分

2. 場所

市役所 101 会議室

3. 出席者

会長及び委員 15 名（欠席 5 名）

事務局 15 名

4. 議題

- (1) 第 2 期刈谷市子ども・子育て支援事業計画「量の見込みと確保の内容」について

事務局から資料 1 について説明した。

（質疑）

- ・委員 2 点お尋ねしたい。まず 1 点は、放課後児童クラブの「量の見込みと確保の内容」について。来年度から小学校の部活動が廃止になり、今の 3 年生、来年の 4 年生から順次なくなっていく。昔は、児童クラブが 3 年生までだったのは、部活動が非常に多かったこともあり、4 年生からは部活をして家に帰りましょうということだったと思うが、部活動が徐々に縮小され、さらに廃止になるという中で、児童クラブの見込みがどうなるのか。市は今後、児童クラブを利用される方が増えると見込んでいるのか、現状、必要な方は登録をしているので、そんなに見込みが増えないというふうに見込んでいるのか。

もう 1 つが、参考資料の 12 ページ、「要保護者対策地域協議会の充実」のケース検討会議開催について。この目標値が 20 回で、実績値よりも多い回数となっている。コロナの影響もあると思うが、4 年度

は実績が低い。このケース検討会議というのは、課題のある家庭のことを検討する会議で、社会的に見れば回数が減った方が本来あるべき姿かもしれないが、これまで回数が増えてきたのは、課題のある事例が増えたということなのか、それとも、横のネットワークが広がってそういった家庭を認知できることが増えたということなのか、市としてどう考えているのか。

- ・事務局 まず、放課後児童クラブの量の見込みについて、実際これから具体的な推計作業に入っていく段階ではあるが、人口減少によって少子化が進み、将来的にはおそらく利用者そのものは減少傾向に向かうという予測はしている。ご指摘の小学校の部活動の廃止について、こどもたちの放課後の居場所がそれによって限定され、利用率を増加させるという点に関しては、少子化による減少分を少し抑制する要素になるのではないかという認識を持っている。現状の高学年の利用状況は、今年の5月1日の利用率で申し上げますと、5年生全体の約6%、6年生全体の約3%ということで、非常に低い利用割合である。それがどれだけ増えてくるかは難しい判断ではあるが、そういった視点を忘れないように推計し、見込んでいきたいと考えている。

次に、要保護者対策協議会に関する指標の考え方について。こちらは相談件数を数値目標としているが、数が多ければいいという考え方ではない。また、年度の最初の会議は、連携強化のための顔合わせという意味もあるので、そこはしっかり実施しながら、必要に応じてケース会議を増やしていくという形になると考えている。意図もなく数が増えればいいという考え方とはならないよう、新しいこども計画においても推計の見込みをしていきたいと考えている。

- ・委員 児童クラブについては、来年部活動が廃止されるということで、推移を見ながらしっかり決めていっていただきたい。

ケース会議の件については、回数云々というよりもやはり救うべき

人を救うということが第一だと思うので、しっかりとネットワークを広げていただいて、検討すべき時はしっかり検討してもらえると良い。

・会 長 私からも質問させてもらいたい。認可外保育について説明してもらったが、乳児院への移行、それから、認定こども園への移行ということで、保育所の制度も変わってきている中で、行きたいけれど入れない、待機児童はどうなっているのかということがわかれば教えてほしい。

・事務局 今年度の待機児童については、10人となっている。

・会 長 制度が変わる中でよくわからない方もいらっしゃるのではないかなと思う。待機児童は基本ゼロを目指すということで、待機児童がなくなるといいと思う。

・事務局 昨年度まではゼロであったが、令和6年度は1歳児の保育の申し込みがかなり多かった。人口減少とはいえども、保育の利用率が高まっているということであるため、ニーズに応じた保育を提供できるよう、対策を考えていきたい。

(2) こどもたちの意見聴取について

事務局から資料2について説明した。

(質疑)

・会 長 中間報告という感じかなと思う。前回会議において、こどもアンケートに対して非常にたくさんの素敵な意見をいただき、それを踏まえてアンケートを実施できた。

(3) 刈谷市こども計画の骨子案について

事務局から資料3及び資料4について説明した。

(質疑)

・会長 確認であるが、計画案の差し替えの資料として、とりわけ第3章の基本目標のところを中心にご意見をいただきたいということによいか。

・事務局 はい。今回ご意見をいただきたいと考えているのは、特に基本目標1から4の整理の仕方について。これに関しては、29ページの図の整理に関して、例えばこの事業はどういう位置付けになるのかとか、そういった観点がもしあれば、意見をいただきたい。

また、必要な視点や課題、こういう問題についてもっと目を向けるべきではないかとか、書いてある内容についてここはどういうことを意図しているかわからないとか、そういったご意見もいただければと考えている。

・委員 まず、29ページの計画の体系について聞きたい。この基本目標4つというのは、これは度合いというか、横並びで考えていいものなのか、それとも何らかの縦の関係があるのか。多分こういう縦長の図になってくると、基本的には上から重要度が高いともとれる気もするが、その辺がどうなっているのかを確認したい。

次に、26ページに刈谷市の課題が書いてあるが、おそらく全国的に見てもこういう課題を持っている自治体は多いと思う。特に刈谷市に見られるような課題や重点的に取り組まないといけないポイントが具体的であればいいと思うが、刈谷市ならではの独特な視点というのはあるのか。

もう1点、「こども・若者等の意見」というところで、意見聴取を行っているが、これまでは量の見込みなどは、量的なデータをもとに分析していたと思う。ここに質的なデータも入ってくるというところ

ろで、両者をどうミックスするのか。ただ意見を羅列するだけにとどまらないような、どんな工夫をする予定なのかを教えてほしい。

- ・事務局 まず、1つ目の質問、29ページの体系図に関し基本目標1から4の重みづけというか、このように並べたのはなぜかということについて。

こども計画は、こども・若者が中心ということであるため、「こども・若者の権利の尊重」を1番に持ってきたのは、重みづけとしては一番重要という意図がある。ただし、2、3、4が重みづけとして弱いということではなく、この1から4で重複する部分があるということのも事務局としては自覚している。1番がこども・若者主役。こども・若者に一番近い環境として2番の健全に育つ環境。3番目が子育て。4番目が社会全体で、一番大きな話というような並びで整理した。こども・若者の目線に立った時に、自分事として取り入れやすいものから、1番、2番、3番、4番と距離感的なイメージで置いている。見せ方として縦に置くことが感覚に合わないということであれば、他にもっとわかりやすい概念図もありうると思うのでご意見いただきたい。

次に、2つ目の質問について、第8次刈谷市総合計画においては、刈谷市の全体的な課題をとらえて、この5つの重点戦略というものを設けている。第8次総合計画の特徴としては、魅力ある働く場の創出であったり、にぎわいの創出であったり、誰もが活躍できる社会の形成であったり、比較的ポジティブなマインドになるような重点戦略を設けている。今回そういったポジティブなイメージを大切にしながら、こども計画を策定していきたいという思いを持ちつつ、刈谷市特有の子ども・子育て世代の課題については、今回実施したアンケートであったり、意見聴取であったりというところから捉えていきながら、計画に落とし込んでいけると良いと考えている。

最後に、3点目の質問、量の見込みの件に関しては、子ども・子育て支援事業計画のものをこども計画に内包させるというような処理をかけるため、どうしてもニーズの把握に関しては、子育て世帯の目線

というような形にならざるを得ないと考えている。保育園、幼稚園で受け入れ可能な人数等に関しては、引き続きニーズ調査を行う中での取り組みになってくるものと思います。

一方、子どもの意見が質的な部分でどうはね返ってくるかということについては、今までは子育て世帯の保護者の意見を聞いて判断していたが、こどもが実は保育園に預けられるのは嫌なんだとか、家庭でもっと保護者と一緒にいたいというような思いを持っているとか、そういったところをこども目線での意見として聴き、判断材料としていきたいと考えている。保育園、幼稚園、あるいは児童クラブというところで、どのように過ごしていきたいのだろうということは今までのニーズ調査の中では全く把握できていなかったため、居たくなるような居場所としての保育園、幼稚園、児童クラブとは何なのだろうという、そういった観点を、こども自身の意見を直接聴取することによって把握していこうと考えている。

よって、守備範囲としては重なり合う部分もあるかとは思いますが、これからこども計画で整理していくということではないかと考えられるため、両輪で進めていくような整理になろうかと思う。

- ・ 委員 こどもの意見を聴くことで、量的に見たときよりも深みが出るような計画になってくると思うので、説明されたように刈谷市ならではの視点を見つけて取り込んでいくという方向で進めると良いと思う。
- ・ 会長 大事なことを言っていたいたと思う。全国的な動向とも重なるが、フルタイムで女性が働くようになっているし、それを希望するようになっている。また、保育を早いうちから希望するようになっている。刈谷市のデータでも同様なことがみられているかなと思う。それと、こどもを預ける人がいないというのは、ますます人に頼れない状況が強くなっている傾向かと思う。そういう観点でも再検討する必要がある。

- ・ 委 員 基本目標４の社会全体での子育ての推進について、いろいろな研修に参加してきて、やはりこどもが地域に携わらないと地域は衰退していつてしまうと思った。こどもが地域に密着して地域を盛り上げていくということが大事だと、どの研修でも言われている。だから、もう少し具体的なことをここに入れてもらおうとありがたいと思う。

それからもう１つ、私がよく話を聞くのは、きょうだい違う保育園に行っているというケース。上の子はこちら、下の子はこちらということを最近３件ほどお聞きした。もちろん同じ保育園に入れてもらえるようにはしていると思うが、あまりにも数が多かった。保護者がすごく大変だということ、何とかならないのかなということ聞くことがあるので、今後どうしていくのか保護者の意見として聴いてほしい。

- ・ 委 員 地域でこどもを育てるということをどこでも言われている。こどもが地域に携わって、地域が盛り上がっていく。いろんな地域の行事だとか話し合いだとか、こどもとの関わりを密にしないといけないという話を聞いて、たしかにそうだなと思った。今は子ども会にも入らない子もいるので、地域に関わることがないし、地域が衰退していつていくという話も聞く。できれば何か地域と関わるものがあるといいかなと思う。

- ・ 会 長 体系でいうと基本目標４のところ、ここに地域の視点をもう少し強く出せないかということと、具体的なねらいと結びつくような糸口をということだと思う。

２つ目に発言のあった、きょうだい違う保育園にというところは、議題１と関わることだと思うが、その辺りについて実情を教えてください。

- ・事務局 実際に困っている方がいるということをお聞かせいただいて、ありがとうございます。できるだけ、きょうだいで同じ園を希望されているということは前提として私たちも入所の相談を受けるが、年度の途中での希望であると、きょうだいで一緒に所を案内することが難しい場合もある。その中でも上の子と下の子のどちらを先に入りたいことを希望されるのかとか、別の園であれば案内することはできるとか、そういった細かい窓口での対話をもとに、別々でも構わないというふうに言っていただいて案内しているというのが実情ではある。ただ、今お聞きしたように、切羽詰まってそうやって別々でも構わないとは言われながらも、実際に入られた後に送迎等で無理が重なっていくということが実際あることは承知している。なので、できるだけ一緒に所に案内できるようにというのは、最初に説明をしたとおり、枠をきちっと確保していくことが重要であると思っている。

もう1点は、最初に会長からもお話があったが、乳児園化したことにより、0～2歳の乳児の預かりができる施設、受入枠は増えたが、その乳児のきょうだいが3～5歳である場合は、必然的に別々の園での預かりとなるケースはある。ただそういったところも、幼稚園の近く、送迎に少しでも無理がないような乳児園と幼稚園という所を案内できるようにしたり、あるいは、上の子の学校を目安に、下の子の幼稚園については学校の近くの園を探すというケースもある。そういった実情があるということをここではご報告しながら、いただいた意見についても実際の相談の時には意識して対応していきたいと思う。

- ・会長 その辺りのところ、家族の生活全体を支えと考えたら、切れ目のない支援というキーワードにも当てはまるかなと思う。
- ・委員 基本目標4の社会全体での子育ての推進について、私もこどもが3人おり、子ども会に入っているいろいろお世話になっている。地域で人材の発掘育成、コミュニケーションを取るというようなところを主に取

り組まれていると思うけれども、実情なかなか子ども会に入る子が少ない。その理由を考えるに、昔は習い事とかやっていなくて、地域として集まるということが子ども会しかなかったのが、今は基本的に習い事をやっている子が大半になった。さらに保護者も共働きの家庭が多くなって、子ども会で役員回しというか、保護者が仕事をしながらやらなくてはいけないというところがあって、結構この問題が難しいのではないかと思う。その辺り、何か対策を考えられているのか教えてほしい。

- ・事務局 まさにご指摘のとおりのが子ども会で起きており、会員数は年々減少し、加入者が減ってきているのが実態である。特にコロナ禍において、行事やイベントをすべて中断して、アフターコロナと言われる今のこのタイミングで、新しい子ども会のあり方というのを我々も今模索している。減っていくこどもたちから、地域でこどもたちを育む担い手の不足、ここの兼ね合いをどうしていこうかというところ。1つのヒントとして見出しているのは、今までは、保護者の皆様や地域の皆様の協力の下、行事やイベントの企画・立案・実行まで一連のものを全部手作りでしてもらうのがベースであったが、やはりその負担がとても大きいという声を私たちも把握している。なるべくそういった負担がかからないような形で、でも、こどもたちに魅力あるイベントができるように、参画型から参加のイベント企画へと方向性を転換し始めている。おかげさまで各行事に参加する方たちの人数は減少せず、横ばいの状態となっている。一気に増えることには至っていないが、参加してくださった皆さんからはとても評判が良いと聞いている。

- ・会長 子ども会もそうだが、10代からの繋がりというのがなかなか難しくなっている。町内会もしかり PTA もしかり。そういう中で大人が繋がるのも難しくなっているし、子どもが育つ地域の環境の中で新しい仕

掛けが必要と思う。その辺りも盛り込むとすると基本目標4かなと思う。

・委員 今、地域の行事だとか子ども会参加も減っているという話があった。

私は児童クラブに勤めているが、この間、地区のかりがね祭りという催しがあったようで、それに参加するために昼過ぎで帰るという家庭があり、こどもたちもすごく嬉しそうに「今から行くんだ」「ダンス踊るんだ」という感じで参加するのを楽しみにしていた。だから、地域も巻き込んでやってくれるようなことがこれからも必要なのかなと思った。子ども会は減るのであろうが、地域も一緒になって親の負担が少しでも減るようなイベントがこれからも盛んになっていくといいのかなと思う。東刈谷地区でも、東刈谷ワイワイフェスタとか、そういったものもある。これもやはり地域の商店街が一緒になってこどものイベントだとかそういったものもやってくれているので、そこで地域にどんな人がいるかというのがわかるのかなと。そういったものがあるんな地域で盛んになっていけばいいと思った。

・委員 28ページの視点2について、当事者は誰なのか。要は、こどもなのか親なのか社会なのか。当事者はその時その時でいろいろ変わるので、ひょっとすると中には逆の立場になる場合もあるのかなという中で、横串として当事者の視点というのはどういうことに気をつけて全体を考えるようにしていくのか教えてほしい。

・事務局 当事者の目線というのは当然相反する場合もあるとは思いますが、相反する場合であっても、それぞれの視点をきちんと理解した上で施策を打つということが重要と考えている。片方の視点だけに偏ることなく、両方それぞれ違う視点があるということをまず認識して、その上で施策を打っていく、推進していくという考え方である。

- ・ 委 員 疑問に思ったのは、ここの4行の書きぶりについて。行政の計画なので行政寄りに書かれるのは仕方ないのだが、例えば「社会」というと、行政の見方からの書き方しかしていないと感じて、「双方の」というようなところが読み取れなくて、ここの書きぶりはどうなのかと思います質問した。
- ・ 会 長 伝わるということが大事だと思う。大切なことを狙って書いてもらえているとは思いますが、こんな時にはどうしたらいいとか、そのあたりを問う質問かなと思った。文書が行政的な書きぶりだと指摘していただいたが、こういう言葉であればもっとわかりやすいという言葉がもしあれば。
- ・ 委 員 先ほど説明があったように、「それぞれの視点に立って」ということがこの文章の中にあればいいと思う。この文章だけで「当事者」というと、行政側のような社会のような雰囲気があったので。冒頭で当事者は誰かということを探ねたのはそういう趣旨である。
- ・ 事務所 いただいた意見を参考して、修正案を考えたいと思う。
- ・ 会 長 大事なコンセプトについての指摘をいただいた。意見をいただいて私も聞きながら考えたが、必要な視点は、狙っているところはすごく意味があるが、やはり伝わるようにというところ。コンセプトの絞り込みが必要なのかなというふうに思った。「切れ目のない」というところが難しいなと思う。というのは、今まで子育て支援で妊娠、出産から子育てまでの切れ目のないというふうな中でしていたところも、赤ちゃんから育っていくこども、それから育てるところが、切れ目がないということなのかなと。そうすると、妊娠・出産・子育てはすべての人がするものという前提なのか。人生の多様性みたいなところを考えたらどうなのかな、ということをした。ここは「人生を支

える」ということであるが、どうやったら一番大事なことが伝わるか検討してはどうかと思った。

今日のところはここまでとして、また持ち帰って個別に連絡をいただくというような対応でよいか。

- ・ 事務所 今回のご意見を踏まえ、骨子の修正案という形で委員の皆様にごフィードバックしたいと考えている。そこで、説明の中でお伝えした10月の第2回会議前の計画素案に関する意見聴取の他に、今回の第1回会議を踏まえた骨子の修正案を、メールで展開したいと思う。
- ・ 会長 こどもの生の声を聴く作業と並行して、切り詰めていくことになるかなと思う。良いタイミングで検討していただくということをお願いしたい。

5. その他

- (1) おがきえ保育園およびあおば保育園の私立保育園への移行について

事務局から資料5について説明した。

(質疑)

- ・ 会長 大きな議論としては、やはり保育の質が保たれることが何よりも大事なことというふうに思う。それから、近年は民間の方がむしろ遅くまでこどもを預かってくれるので、サービスの均衡化ということが大事ではないかというようなご意見もいただくようになってきた。それも非常に重要なポイントだと思う。そうすると保育士の労働問題のことも非常に難しいこともたくさんあるけれども、育つ環境、保育の質がとにかく確保される、刈谷市全体としての保育の質は担保されるということが最重要かと思う。